

プログラム番号	06017
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	東京農工大学		
②学長名	小畑秀文		
③所在地	〒183-8538 東京都府中市晴見町3-8-1		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	大学院農学府国際環境農学専攻教授	
	担当者氏名	久保 成隆	e-mailアドレス kubo@cc.tuat.ac.jp
	電話・FAX番号	042-367-5757	
⑤ホームページURL	http://www.tuat.ac.jp/		
⑥大学院在学留学生数	278人（うち、国費留学生 106人）		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	実践的環境農学技術者・研究者養成プログラム		
②プログラムの形態	修士課程（2年間）		
③実施研究科・専攻	大学院農学府	研究科	国際環境農学専攻
	（所在地）東京都府中市幸町3-5-8		
④連携大学・研究科・専攻名	特になし		
⑤受入れ学生数	26人（うち研究留学生優先配置人数： 8人） （うち日本人学生数： 人）		
⑥担当教員数	合計 13人（うち専任： 13人、兼担： 人、非常勤： 人）		
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 大学院農学府		
	研究科長名（学府長名） 有馬 泰紘		

【3. プログラムの内容】

1. 本プログラムの名称

本プログラムは、**実践的環境農学技術者・研究者養成プログラム**と称する。

2. 英語を「公用語」とする実践的プログラム

本プログラムは、国際社会に対する知的貢献の実現が急務である「**環境農学**」の教育・研究を、外国人私費留学生・研究留学生（国費留学生）に対し、**英語を「公用語」とする教育・指導の徹底・強化により実施することを通じて**、修士課程の2年間だけで、開発途上国・途上地域において環境農学を**実践する地域開発リーダー、専門的技術者**に加え、環境農学の分野において一定の国際水準を満たす**実践的な教育・研究者**をも養成するプログラムである。

具体的には、基礎学力が豊かでフィールド調査能力をも兼ね備えた、持続可能な農業・地域開発に携わる**リーダー・技術者**、また**教育・研究者**を、**育種・栽培、農業工学から生命工学、水環境等にわたる自然科学系、農業・農村開発と国際協力に代表される人文・社会科学系の農学及び農学関連諸分野の最先端の成果を駆使した教育を有機的に結合し、これを総合的に実施することにより、輩出するよう努める。**

本プログラムは、このように独自性の高い**留学生受け入れのモデル**となるプログラムである。

3. 10月入学と専門分野別配置

本プログラムは、**外国人留学生**を対象とし、毎年**10月に開始**される。

受入れ留学生人数は、一学年当たり私費留学生18名、研究留学生8名とする。

受入れ留学生は、その**専門分野に従い**、本専攻の3つの講座である「**国際環境修復保全学講座**」、「**国際生物生産資源学講座**」（以上自然科学系）、「**国際地域開発学講座**」（人文・社会科学系）のいずれかに**配属**される。

4. 万全を尽くしたカリキュラム

本プログラムのカリキュラム上の修了要件は、「**共通科目**」、「**専門分野科目**」、「**論文研究等**」、「**他講座及び他専攻の専門分野科目**」、「**副専攻科目**」の5グループよりなる**授業科目中32単位以上を修得すること**、及び**修士論文を作成しその審査に合格すること**である。

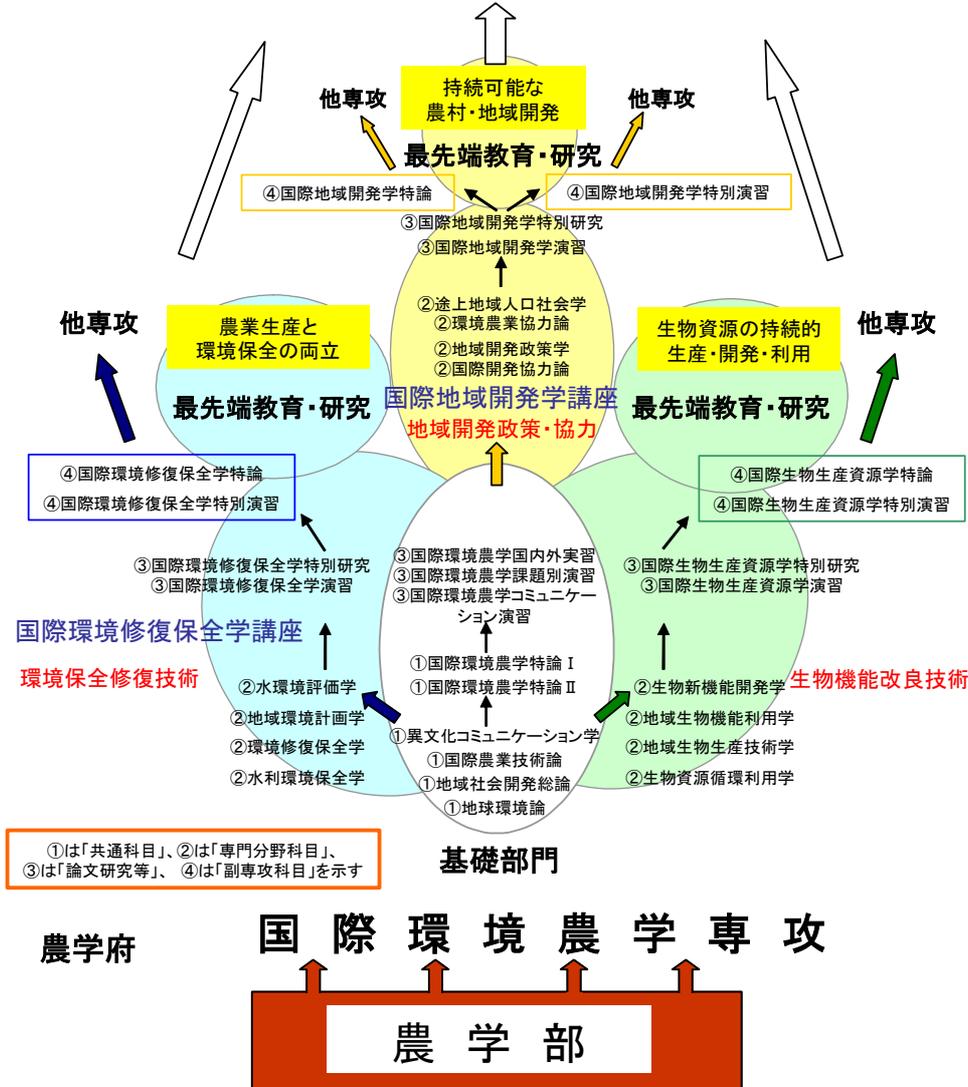
同カリキュラムは、本プログラムが対象とする外国人留学生、4月入学の通常プログラムの日本人学生・外国人留学生がともに**標準修業年限内で学位（修士農学・修士学術）を取得することが可能な体制**、外国人留学生が**安心して教育を受け研究活動を行える体制**を整備している。すなわち、

- ① 授業科目は、そのほとんどが英語を「公用語」として講義・教授されるため、本プログラムの外国人留学生は、4月入学の日本人学生・外国人留学生とともに相互交流・相互理解を深めつつ、学習することができる。
- ② 授業科目はまた、そのほとんどが1年次に履修・修得が可能となるよう配置してあるため、遅くとも2年次開始時には修士論文の作成に専念することができる。
- ③ 修士論文作成については、**主指導・副指導体制**を徹底しており、自らの専門分野をいっそう深く総合的に学習することができる。
- ④ 修士論文の内容は、2年次に実施する2回の公開報告・審査会で検討され、その審査結果は、本学農学府教授会で厳格に審査し可否を判定している。
- ⑤ 本プログラムの外国人留学生に対しては、日本人学生による**チューター制度**を実施し、各研究室も学生用デスク、コンピューター、各種実験器具、図書、電子資料等を一定数配置する等、各種のサポート体制もほぼ万全である。
- ⑥ 本プログラム担当教員の若干は英語、また独語、スペイン語のほか、中国語、ベトナム語、インドネシア語等の現地語をも駆使した教育・指導が可能であり、当該諸国の外国人留学生との相互理解を深める一助となっている。

5. コース・ツリー

社会貢献: 持続可能な食料生産 バイオマスの活用 環境の改善
人口増・貧困の緩和 途上国の人材育成

教育研究目標: グローバルな農業・環境関連の研究開発・技術移転を
指向する総合的・学際的教育研究



6. 応募から合格まで

本プログラムの外国人留学生の募集方法は、毎年、ほぼ以下の通りである：

- ① 10月に『募集要領』（日本語・英語）を印刷し、配布・発送する。
- ② 留学生候補者の募集対象国は、主にアジアに代表される**開発途上国**とする。特にインドシナを中心とする**東南アジア及び中央アジア**の諸国に重点を置く。
- ③ 留学生候補者の願書は、翌年の1月末必着とする。受理された願書は**学業成績、学習・研究意欲、語学水準**の3項目について厳正に審査され、その可否は本学農学府教授会が最終的に決定する。研究留学生候補者については、文部科学省の定める選考基準に基づいて、別途の審査をさらに実施する。
- ④ 可否の結果は、留学生候補者のすべてに対し、5月末までに通知する。合格と判定された留学生候補者は、本学の規定に従い、10月初頭に本プログラムの対象とする外国人留学生として招請される。